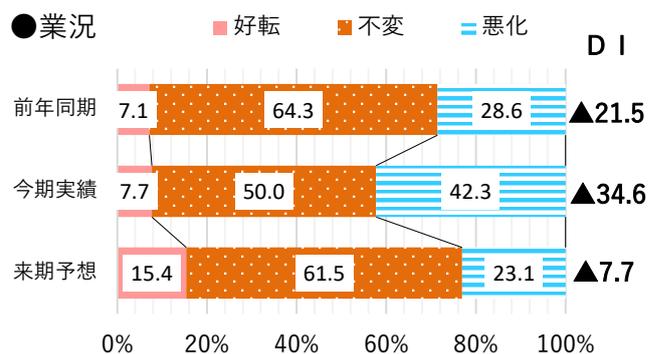


サービス業

業況、売上、採算

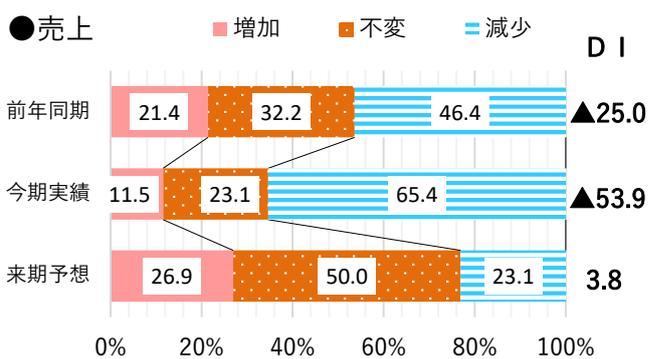
今期（2021.1～3）の業況判断DIは▲34.6で、前年同期(2020.1～3)と比べ13.1ポイント低下しました。

来期（2021.4～6）は、業況の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



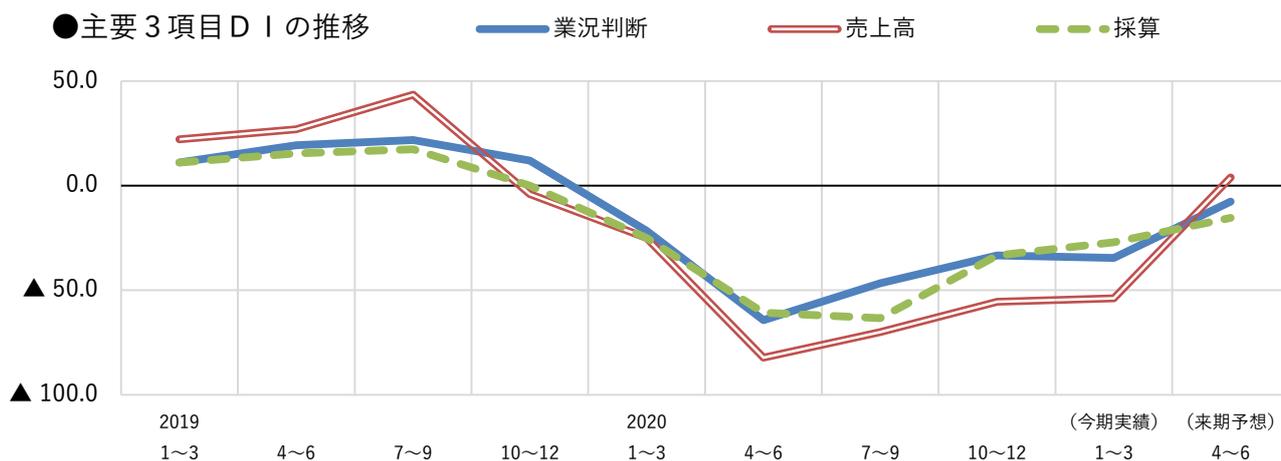
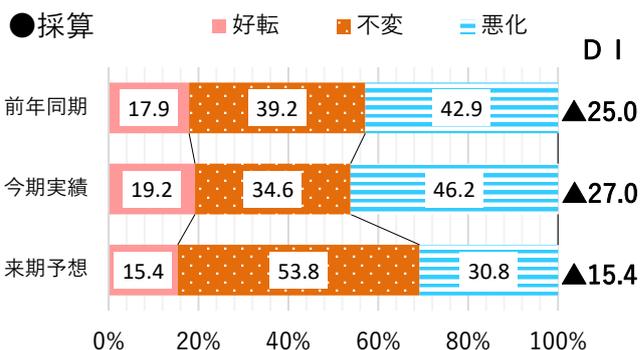
今期の売上高DIは▲53.9で、前年同期と比べ28.9ポイント低下しました。

来期は、売上が増加に転じると予想しています。



今期の採算DIは▲27.0で、前年同期と比べ2.0ポイント低下しました。

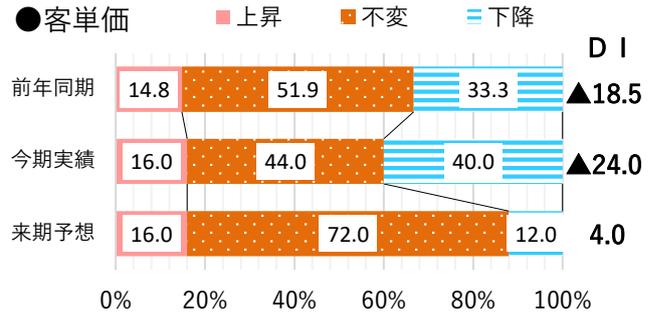
来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



客単価、利用客数、仕入単価

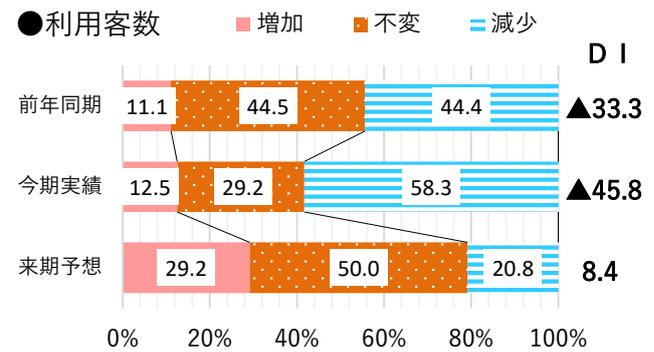
今期の客単価DIは▲24.0で、前年同期と比べ5.5ポイント低下しました。

来期は、客単価が上昇に転じると予想しています。



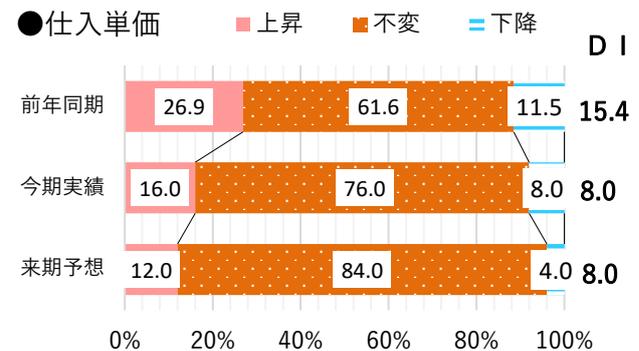
今期の利用客数DIは▲45.8で、前年同期と比べ12.5ポイント低下しました。

来期は、利用客数が増加に転じると予想しています。



今期の仕入単価DIは8.0で、前年同期と比べ7.4ポイント低下しました。

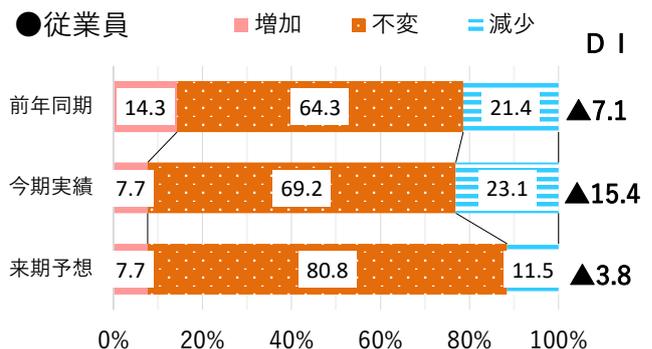
来期は、仕入単価の横ばいを予想しています。



従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲15.4で、前年同期と比べ8.3ポイント低下しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は11.5%、適正であると回答した企業の割合は73.1%、不足していると回答した企業の割合は15.4%でした。



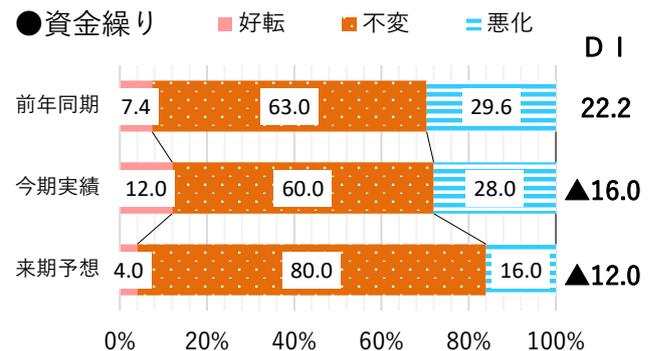
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、サービス業全体の53.8%を占めています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	0
不変だった	過剰	2
	適正	14
	不足	2
減少した	過剰	1
	適正	3
	不足	2

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、充足している」という回答でした。

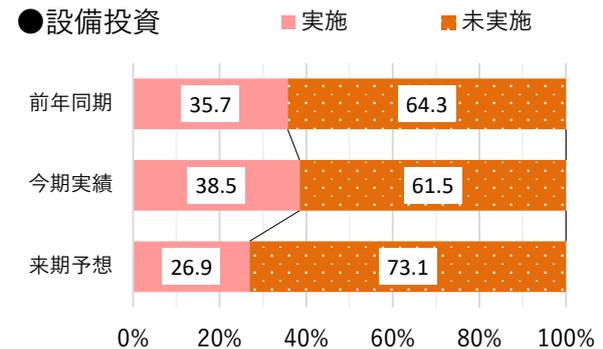
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲16.0で、前年同期と比べ6.2ポイント上昇しました。



来期は、資金繰りの悪化傾向が続くと予想しています。

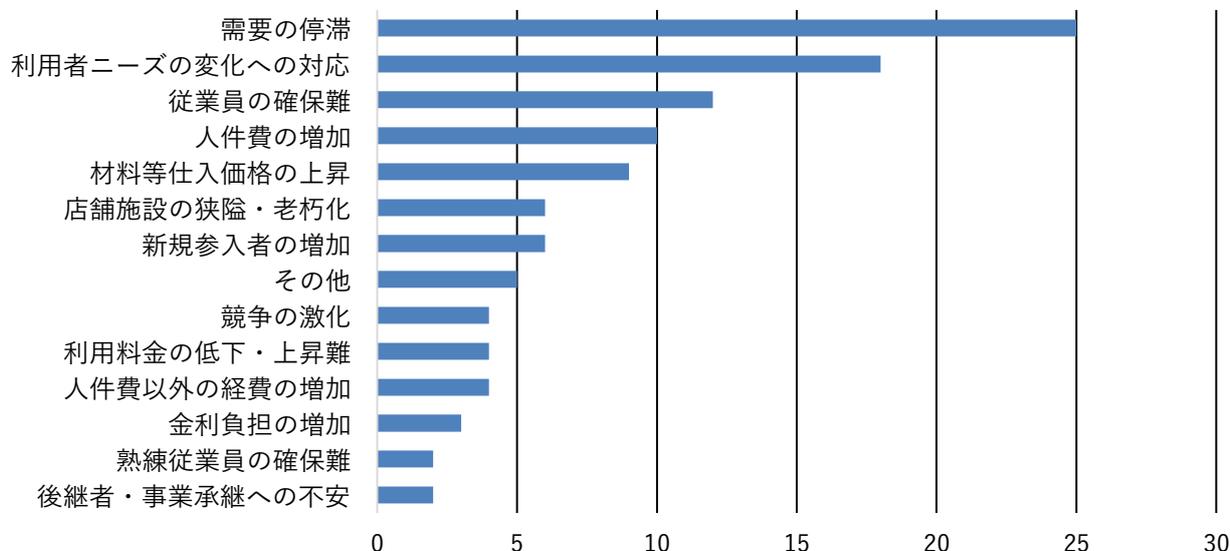
設備投資を実施した企業の割合は38.5%で、前年同期と比べ2.8%増加しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「OA機器」の順です。



来期に設備投資を計画している企業の割合は26.9%で、減少を予想しています。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「需要の停滞」、2位が「利用者ニーズの変化への対応」、3位が「従業員の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 仕入価格は安定していたが、客数の減少によって材料のロスが増加し、売上原価が上昇したため厳しい状況にある。（飲食店）
- 全国民への早急なワクチン供給が、経済回復のカギだと思う。今が景気の底ではないか。（飲食店）
- 好転の兆しは全く見えない。肉等の仕入価格が上昇した。（飲食店）
- 新型コロナウイルスの影響で、3月以降に延期されていた修学旅行が中止となったため、状況は厳しい。（旅行代理店）
- 新型コロナウイルス関連の受注があったため、売上の落ち込みはさほど大きくなかった。粗利益の高い案件が多かったため、採算が好転した。（広告代理業）
- 外出自粛要請によって、客数が減少した。仕入価格は不変だったが、仕入れる必要が無かったため、支出額は減少した。従業員数と最低賃金は変わらなかった。（美容業）
- 人材確保が課題である。（ビルメンテナンス）
- 客数が減少した。（写真業）
- 昨年の緊急事態宣言下よりは業況は好転傾向にある。（保険業）
- 来店客数が2～3割減少した。（保険業）
- 繁忙期のため、短期のアルバイトを雇用した。3月の客数に変化は無かった。（不動産代理・仲介業）
- 新型コロナウイルスの影響で、ホテル部門の売上が大幅に減少した。病院部門は、患者数が減少している中で、売上が増加した品目がある。（各種物品賃貸業）
- 新規入会企業が増加したため、昨年並みの経常利益を維持できた。（スポーツ施設）

[来期の業況について]

- 少しずつ改善すると思うが、当分は現在の状況が続くと思うので、テイクアウト等に取り組みたい。（飲食店）
- 徐々に回復すると思われるが、感染力が強いと言われる変異型ウイルスの影響が懸念される。（飲食店）
- 新型コロナウイルスが終息しても、すぐに利用客が回復する状況ではないと思われるので、新たなビジネス展開も視野に入れる。（旅行代理店）

- 業況は不透明である。（広告代理業）
- 外出自粛要請が無ければ、好転が予想される。（美容業）
- 客数の減少が続くと思われる。（写真業）
- 去年の緊急事態宣言直後に比べて、業況は若干改善すると思われる。（保険業）
- 来店客数に変化は無いと思われる。（保険業）
- 業況の変化は無いと思われる。新規採用の予定も無い。（不動産代理・仲介業）
- 新型コロナウイルスの影響は続くと思われる。病院部門での増収増益を見込む。（各種物品賃貸業）
- 年会費と利用料金を引き上げるため、増収を見込む。（スポーツ施設）